

酒田光陵スポーツ・文化後援会

会報
第3号
2019.5

進取果敢



平素より、皆様には本校教育活動に
対しましてご理解とご支援を賜り、深
く感謝申し上げます。誠にありがと
うございます。お陰さまで、生徒たちは、
学業はもとより生徒会活動や部活動に
情熱をもつて取り組むことができており、
その成果は目覚ましいものがあります。



校長
鈴木 和 仁

平成30年度は、運動部9部（陸上競
技、体操（新体操）、弓道、剣道、水泳、ウエ
イトリフティング、ボート、少林寺拳法、
相撲）、文化部9部（音楽、管弦楽班、
書道、写真、メカニカル技術、機械技術

班・電子機械技術班、環境エネルギー
技術エネルギー技術班、商業技術簿
記班・珠算班、ITサイエンス）、総勢
80名を超える生徒が全国大会へ出場し、
山形県の代表として活躍をしました。
中でも、昨年の愛媛国体に続き、福井
国体ボート女子シングルスカル優勝
や、全国高総文祭写真部門文部科学大
臣賞受賞という大きな成果をあげるこ
とができ、本校関係者のみならず、多
くの人の感動を与えてくれました。

今後、「進取 創造」の校訓のもと、
教職員一丸となり、学校の活性化並び
に地域社会に貢献できる人材の育成に
努めて参りますので、皆様におかれま
しても、引き続き、本校教育活動に対
しまして、ご理解、ご支援を賜ります
ようお願い申し上げます。

今年度で四年目を迎えましたスポー
ツ・文化後援会は本校のスポーツ文化
芸術の活性化のために、本校の柱である
「地域起点」の視野から、活力ある
地域づくりに寄与するために多くの
方々からのご支援をいただいで平成二
十七年十一月に設立しました。以後、
物心両面においてご支援を賜りました
ことを心より御礼申し上げます。



会長
齋藤 俊 勝

また、文化部では写真部三年の佐藤
礼徳くんが最優秀賞文部科学大臣賞を
受賞する快挙を成し遂げました。
酒田光陵高等学校は新しい伝統が皆
さんの上に形作られております。近い
将来オリンピック等で世界的に活躍す
る人達がたくさん現れてくれることを
期待しております。

酒田光陵高等学校で自分が目標とす
ることに挑戦し、楽しく幅の広い人生
を歩んでいくための力を身につけてほ
しいと思います。

高校生の皆さんにとつての目指すも
のとは、過去にはなく未来にあります。
スポーツ・文化後援会が高校生諸
君の人生において少しでもお手伝い
できれば幸いです。皆さんのより
一層の活躍を期待します。

地域の皆様、OBOGの皆様には、
更に組織の輪を広げ、支援を充実させ
ていきたいと考えておりますので今後
ともご協力を賜りますようよろしくお願い
いたします。

平成30年度 収支報告

【収入の部】

【支出の部】

科 目	予算額	決算額	比較増減(△)
1.会費	4,838,000	4,862,500	24,500
同窓会員	1,800,000	1,790,000	△ 10,000
保護者	2,838,000	2,874,500	36,500
職員	200,000	198,000	△ 2,000
2.寄付金	1,000,000	944,000	△ 56,000
3.同窓会負担金	0	0	0
4.繰越金	1,631,643	1,631,643	0
5.雑収入	357	0	△ 357
合 計	7,470,000	7,438,143	△ 31,857

科 目	予算額	決算額	比較増減(△)
1.事務費	500,000	364,081	△135,919
2.スポーツ文化振興費	6,000,000	4,272,880	△1,727,120
特別強化費	3,000,000	2,622,960	△377,040
育成支援費	2,500,000	1,649,920	△850,080
文化活動事業費	500,000	0	△500,000
3.職員費負担金	200,000	200,000	0
4.積立金	500,000	500,000	0
5.予備費	270,000	23,320	△246,680
合 計	7,470,000	5,360,281	△2,109,719

収入総額 7,438,143

支出総額 5,360,281

差引残額 2,077,862(次年度繰越金)

会計監査報告書

平成30年度決算につき、事業報告並びに収支報告書および
関係帳簿類などを監査したところ、適正に処理されておりますので
ご報告申し上げます。

平成31年4月17日

監事 池田 裕一

監事 山本 政史

監事 仁部 亨

令和元年度 一般会計予算

【収入の部】

【支出の部】

科 目	予 算 額	前年度予算額	前年度決算額	比較増減(△)
1.会費	4,703,000	4,838,000	4,862,500	△ 135,000
同窓会員	1,795,000	1,900,000	1,790,000	△ 105,000
保護者	2,718,000	2,838,000	2,874,500	△ 120,000
職員	190,000	200,000	198,000	△ 10,000
2.寄付金	1,000,000	1,000,000	944,000	0
3.同窓会負担金	0	0	0	0
4.繰越金	2,077,862	1,631,643	1,631,643	446,219
5.雑収入	138	357	0	△ 219
合 計	7,781,000	7,470,000	7,438,143	311,000

科 目	予 算 額	前年度予算額	前年度決算額	比較増減(△)
1.事務費	500,000	500,000	364,081	0
2.スポーツ文化振興費	6,000,000	6,000,000	4,272,880	0
特別強化費	3,000,000	3,000,000	2,622,960	0
育成支援費	2,500,000	2,500,000	1,649,920	0
文化活動事業費	500,000	500,000	0	0
3.職員費負担金	0	200,000	200,000	△ 200,000
4.積立金	500,000	500,000	500,000	0
5.予備費	781,000	270,000	23,320	511,000
合 計	7,781,000	7,470,000	5,360,281	311,000

平成30年度 スポーツ文化後援会役員

【会 長】	齋藤 俊勝	大場 弥市	鈴木 和仁		
【副会長】	佐藤 知光	矢口 正昭	齋藤 雄一	三浦 典子	
【理 事】	阿部 広幸	今野 紀生	大川 和彦	庄司 豊靖	
	三浦 一見	阿部 論	佐藤 有	増子	
【監 事】	山本 政史	池田 裕一	仁部 亨		

令和元年度 スポーツ・文化後援会へ ご 寄 付 の お 願 い

スポーツ・文化後援会は「酒田光陵高等学
校の活性化」と「活力ある地域づくり」を目的
として平成27年に設立されました。支援金は酒田
光陵高等学校の生徒のスポーツ・文化活動の
振興に活用させていただいております。

活力ある地域づくりと、スポーツ・文化活動の
支援を通じた酒田光陵高等学校の活性化の
ため、ご支援・ご協力をお願いいたします。

寄 付 金 平成31年3月31日現在で、
納 入 状 況 企業53社、個人40名の皆様方より
ご支援をいただいております。

※平成30年度に頂戴した寄付金につきましては、
令和元年度の収入として計上させていただいております。

寄付申し込み 払い込み方法 振替口座のご案内

寄付は法人1口5,000円の2口以上、個
人1口2,000円以上とさせていただきます。
多くの皆様からのご協力をお願いいた
します。本後援会のご寄付は所得控除の対
象とはなりませんので、予めご了承ください。

■ 同封の郵便払込取扱票利用の場合 …
最寄りの郵便局よりお振込みください

■ 他の金融機関よりお振込みいただく場合 …
右記の口座にお振込みください

- ◆ 銀 行 名：ゆうちょ銀行
- ◆ 支 店 名：二二九店
(二二キョウテン)
- ◆ 預金種別：当座預金
- ◆ 口座番号：0139511
- ◆ 口 座 名：
県立酒田光陵高等学校
スポーツ・文化後援会

ご支援、ご協力をいただきました寄付金につきましては上記予算のとおり活用させ
ていただく見込みとなります。振込みにつきまして不明な点等ございましたら、下記の
問い合わせ先までご連絡ください。

山形県立酒田光陵高等学校 スポーツ・文化後援会

事 務 局 / 〒998-0015 山形県酒田市北千日堂前字松境7-3

TEL.0234-28-8833 FAX.0234-28-8845

E-mail sportsbunka@sakatakoryo.jp



スポーツ・文化後援会“感謝の会” 開催しました!!

平成30年11月9日(金)山形県立酒田光陵高等学校スポーツ・文化後援会“感謝の会”が、酒田市のガーデンパレスみずほを会場に開催されました。

この日の会には、日頃よりご支援をいただいている企業会員様、個人会員様の他、PTA役員、同窓会等の関係団体の皆様と本校教職員合わせて88名が出席しました。スポーツ・文化後援会の齋藤俊勝会長挨拶で会はスタートし今年度部活動で顕著な活躍がみられた2名の生徒に齋藤会長より記念品が贈呈されました。



スポーツ・文化後援会 齋藤俊勝会長



鈴木和仁校長と今年度顕著な活躍がみられた鈴木さんと佐藤くん



齋藤会長より記念品の贈呈

昨年の愛媛国体と今年の福井国体でボート競技シングルスカルで2連覇したボート部3年の鈴木伶奈さんと全日本学生選手権で最優秀賞を受賞した写真部3年の佐藤礼偲くんの2名が光陵生を代表して挨拶をしました。二人とも今後の抱負や決意を自分の言葉で語ってくれました。来場された皆様は、彼らの力強いスピーチに感動していました。



ボート部3年 鈴木伶奈さん挨拶



写真部3年 佐藤礼偲くん挨拶



スポーツ・文化後援会齋藤会長から授与された記念のプレートを手笑顔の二人



書道部
佐藤 琴 美

感謝

全国高総文祭に出場し、たくさんの得難い経験をさせて頂きました。長野を訪れ、現地の方々や各都道府県代表の高校生と書道を通し、お互いの知識を共有でき、交流会ではとても有意義な時間を過ごせました。また、何より「特別賞」を頂いたことがとても嬉しかったです。今年も二年生が県高総文祭を勝ち上がり来年の全国高総文祭に二名出場することが決まっています。「結果が全て」ではありませんが、こうして代々全国大会に続けて出場出来ることを誇りに思います。顧問の先生や先輩から教えて頂いたことを、次の世代にも引き継ぎ、新たなことに挑戦する。校訓である「進取創造」の精神を忘れずに、これからも活動して欲しいと思います。

このように私たちが当たり前に、全国を目指し、書道が出来る環境があるのは、スポーツ・文化後援会の皆様をはじめ、顧問の先生方、両親などたくさんの支えがあるからです。感謝を忘れずに日々努力していきたいと思えます。本当にありがとうございます。



メカニカル技術部
機械技術班
長南夢咲詩

三年連続で全国大会へ

私達、商業技術部簿記班は検定試験に向けての学習をメインとしていますが、大会への参加は年一回しかありません。全国高等学校簿記コンクールへの出場に賭けた県大会です。昨年度先輩方は団体県三位、個人では二名が全国出場



商業技術部
簿記班
平野 愛 奈

全国大会に出場して

私達が活動するにあたりご支援頂いた沢山の先生方とスポーツ文化後援会の皆様に心から感謝申し上げます。



商業技術部
珠算班
村上 玲 奈

全国大会を目指して

商業技術部珠算班は、東北大会や全国大会を目標に日々の練習を頑張ってきました。県大会を突破し、全国大会に向けて自分たちで練習メニューを考え、少しでも多くの問題を解けるように応用計算の解法を一から調べ、基礎を身に付けたり、実際に時間計測をしながら問題の解いたりしました。県大会では残念ながら自分の全国大会への出場権を取ることができませんでした。自分なりに良い結果を出すことができました。全国大会では、マネージャーと

という結果を残しています。それに続くという決意があり、活動時間を二時間延長して過去問題をひたすら解いたり、顧問の先生に解説をお願いしたりすることもありました。県大会では、団体・個人共に上位入賞ができませんでした。個人の県代表として出場が決まったときはうれしかったです。全国大会は会場に入った瞬間から緊張感と焦りを感じました。出題される問題も県大会とは比べものにならない位、難易度が上がっていて今まで学んだことを活かすきれずとても悔しかったです。

若年者ものつくり競技大会、ITネットワークシステム管理部門に出場しました。県予選会では思うような結果が残せず、課題点が多く残る結果となりました。課題点を修正し、全国大会では万全に近い状態で臨みました。



ITサイエンス部
島 山 瑛 至

全国大会に出場して

全国大会に出場している選手は、年上の大学、専門学校、大学の学生がほとんどで、自分の力が通用するか不安でした。しかし、大会の結果は、県予選会の結果を大幅に更新することができました。個人競技のため一人での活動が多く、また競技内容が難しいこともあり、何度も投げ出したくなりました。しかし、周りの方々の支えもあり、乗り越えることが出来ました。指導をしてくださった先生、送迎などして頂いた家族、様々な支援をしてくださったスポーツ・文

化後援会の皆様に感謝を申し上げます。これからも、感謝の気持ちを忘れず、そして何事にもあきらめず挑戦して頑張っていきます。ありがとうございます。



剣道部
小野 柊 真

たくさんの支えから学んだこと

本年度の大会はこれまでの中で、一番思いを込めた試合でした。高校生最後の試合で稽古の成果を思いきりぶつけることができたと思います。緊張の中、自分を信じ、重圧に負けずに戦い、成長を感じることができました。

幼少から剣道を続け、多くの大会に出場し、全国大会で優勝することができたのも、武道家としての教を説いてくれた先生と送迎をしてくれる両親がいたからに違いありません。ひとりの力ではなく、たくさんの人の応援、支えがあったからこそ今まで続けることができた。

この全国大会では練習や努力することの大切さ、勝つ喜び、負けの悔しさなどのことや、この舞台に立てることに感謝の気持ちを忘れてはいけなく改めて感じることもできました。応援してくれるたくさんの人たちの思いを胸に、「ありがとう」の気持ちを込め、全力で戦うことができ、自分の納得のいく結果を出すことができました。この大会を通して学んだことを糧に、これからの人生を歩んでいきます。

文化部

平成30年度 全国大会出場の記録

音楽部管弦楽班

《全国高等学校総合文化祭信州大会》
出場 5校合同弦楽合奏

書道部

《第23回全日本高校・大学書道展》
優秀賞 高橋美憂(3-8)
準優秀 高橋瑞希(3-1) 高橋彩奈(3-2)
長南二千華(3-8) 菅原春香(3-2)
石垣莉子(2-1)

《全国高等学校総合文化祭信州大会》
特別賞 佐藤琴美(3-9)

《春秋書道全国展》

文部科学大臣賞 石垣莉子(2-1)
春秋賞 齋藤和希(2-4)
推薦・山形県知事賞 佐藤萌生(2-2)
推薦 菅原絢(2-1)
金賞 小泉杏奈(2-6)
銀賞 齋藤珠妃(2-1)
銀賞 齋藤芽衣(2-2)

写真部

《全国高等学校総合文化祭 2018信州総文祭》
最優秀賞・文部科学大臣賞
佐藤礼恩(3-4)

将棋

《全国高等学校文化連盟将棋新人大会》
出場
2月1日(金)・2日(土) ダイヤモンド瀬戸内
マリンホテル(岡山県玉野市)
黒石レイ(1-4)

メカニカル技術部 機械技術班

《全国高等学校ロボット競技大会》
出場

メカニカル技術部 電子機械技術班

《全国高等学校ロボット競技大会》
出場

環境エネルギー技術部 エネルギー技術班

《ジャパンマイコンカーラリー2019全国大会》
画像処理部門 出場 庄司尚輝(3-5)
佐藤礼恩(3-4)

商業技術部 簿記班

《第34回全国高等学校簿記コンクール》
個人の部 出場 平野愛奈(3-8)

商業技術部 珠算班

《全国高等学校珠算・電卓競技大会》
出場 伊田菜々子(2-8)・米山心海(2-9)

ITサイエンス部

《第10回全国高等学校情報処理選手権大会》
プログラミング部門
4位 工藤一真(2-9)
5位 石川龍斗(3-9)

《若年者ものづくり競技大会》

ITネットワークシステム管理
敢闘賞 島山瑛至(3-9)
業務用 ソフトウェアソリューション
敢闘賞 岩間一真(2-9)

運動部

平成30年度 全国大会出場の記録

陸上競技部

《全国高校総合体育大会》

男子
200m 予選出場 高橋響優(3-6)
400m 予選出場 今野凜(3-8)
走高跳 予選出場 高橋瀬那(3-5)
走高跳 予選出場 佐藤隆生(2-3)
棒高跳 予選出場 宮内敦史(3-2)
棒高跳 予選出場 岡部曙(3-3)
400mR 予選出場 鈴木・熊田・高橋響・今野

《U18日本陸上競技選手権大会》

男子
やり投 第9位 松本大和(2-4)
棒高跳 第2位 宮内敦史(3-2)

《2019 日本室内陸上競技大阪大会》

男子 U20
棒高跳 第3位 宮内敦史(3-2)

体操部

《インターハイ》

新体操男子個人 出場
佐藤泰斗(3-6)

剣道部

《インターハイ》

男子 男子団体 出場
男子 男子個人 出場
皆川直樹(3-8) 佐藤潤哉(2-8)



水泳部

《日本選手権水泳競技大会》

オープンウォータースイミング女子10km
出場 大場妃優(3-9)

《インターハイ》

女子
400M自由形 出場 大場妃優(3-9)
800M自由形 出場 大場妃優(3-9)

《日本ろう者水泳選手権大会》

女子
200M自由形 1位 齋藤京香(3-7)
200M個人メドレー 1位 齋藤京香(3-7)
100Mバタフライ 1位 齋藤京香(3-7)

《ジャパンパラリンピック水泳競技大会》

<女子 聴覚障害S15クラス>
400M自由形 1位 齋藤京香(3-7)
100Mバタフライ 1位 齋藤京香(3-7)

《日本知的障害者水泳競技大会》

女子
800M自由形 2位 齋藤京香(3-7)
200Mバタフライ 1位 齋藤京香(3-7)
《国民体育大会》
女子オープンウォータースイミング5km
17位 大場妃優(3-9)

弓道部

《全国高校総体》

男子団体 ベスト16
中村・丸谷・佐藤楓・安田・成田

ウエイトリフティング部

《インターハイ》

56kg級 36位 阿部隼昌(3-4)
62kg級 34位 渡會凌登(3-8)
37位 工藤達也(2-5)
69kg級 59位 佐藤尚泰(3-1)
+105kg級 13位 小林恭平(3-4)

《国民体育大会》

少年の部
+105kg級 小林恭平(3-4)
スナッチ 15位
クリーン&ジャーク 10位

ボート部

《世界ジュニアボート選手権(チェコ)》

女子クワドルプル 17位
鈴木伶奈(U19日本代表)

《アジアジュニアボート選手権(韓国)》

女子クワドルプル 3位
鈴木伶奈(U19日本代表)

《ドイツ国際ジュニアレガッタ》

女子ダブルスカル 8位
鈴木伶奈(U19日本代表)

《全日本ジュニア選手権大会》

女子シングルスカル 5位 鈴木伶奈

《インターハイ》

男子
ダブルスカル 敗復敗退
池田学史(3-1)・伊藤一海(3-2)

女子

シングルスカル 準々決勝進出
速水理沙(3-1)
ダブルスカル 敗復敗退
今野優華(3-4)・守屋楓菜(2-7)

《国民体育大会》

少年女子
シングルスカル 1位 鈴木伶奈(3-8)

少林寺拳法部

《インターハイ》

男子組演武 出場
北川蒼志(3-4)・佐藤竜司(3-6)・
佐原匠(1-1)・宮本海音(1-6)
男子単独演武 出場 高橋響(3-6)

《全国選抜大会》

男子自由組演武 出場
佐原匠(1-1)・宮本海音(1-6)

相撲

《インターハイ》

個人戦出場 秋葉成海(2-3)

《国民体育大会》

少年団体戦出場 秋葉成海(2-3)

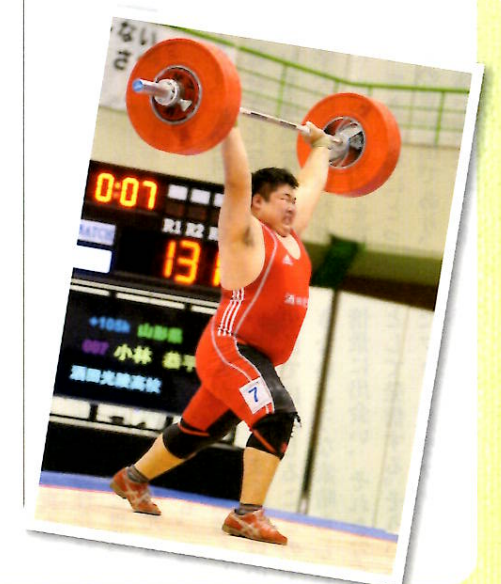
《全国高校相撲選抜大会》

個人戦 出場 秋葉成海(2-3)
体重別個人戦(100kg級)
出場 秋葉成海(2-3)

剣道

《全国高校生剣道 優勝大会》

男子個人
法形競技 第1位 小野柊真(3-6)
女子個人
法形競技 第1位 佐藤杏優(1-9)



全国大会に参加して

弱点と向き合って



ウエイト
リフティング部
小林恭平

最高のバトンパス



陸上競技部
高橋 響優

一人の弓引きとして



弓道部
佐藤 楓馬

OBとして支えていきたい
と思っています。

3年生で初めてインターハイに出場し、入賞を目指して試技をしました。レベルの高さに圧倒されました。他の選手と比較して、自分の弱点はフォームが雑な所だと感じました。インターハイ後は、腰痛とも戦いながら福井県体に向けてこの弱点を改善できるように常に自分のフォームを分析し、改善点を見つけてながら練習を繰り返してきました。その結果、二ヶ月で記録を10kg伸ばすことができました。目標としていた140kgをクリアすることができました。しかし、結果は10位(記録は8位と同じ)でした。目標記録をクリアできたことは嬉しかったのですが、入賞できなかった悔しさもありました。

これまで指導しサポートしてくれた顧問の先生や先輩方、応援してくれた後輩たちや家族には本当に感謝しています。今後は成年選手として国体に出場し、今年度こそ入賞できるよう頑張っていきます。

昨年度は、400mリレーのメンバーとして、今年度は400mリレーに加えて個人種目でもインターハイの切符を掴み取ることができました。この成績は、自分一人の力では成し得なかったと感じています。

酒田光陵陸上部は、関わる人が多い所が最大の武器です。共に切磋琢磨できる仲間やマネージャー、応援して下さるOB・OGや保護者、学校関係者の方々、そして私たちに時に厳しく、時に優しく指導して下さい。先生方やコーチ、沢山の皆さんの支えがあって、今の私たちのいるのだということに改めて気付かされました。インターハイでは満足のいく結果は残せませんでした。しかし、絆の大切さや向上心を持って物事に取り組むことの重要性を学ぶことができました。陸上競技を通して私は人として大きく成長できました。今後はこの経験を最高のバトンパスとして後輩たちへつなぎ、一人の酒田光陵高校陸上競技部の

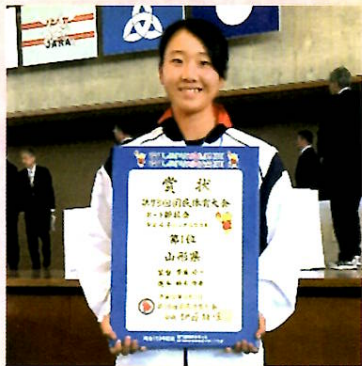
私は一人の弓引きとして、たくさんの人と出会い、たくさんの経験をj得て、人としてとても大きく成長できたと思います。今後は、次の世代を担う後輩たちへ自分が得てきた感謝の気持ちや弓道の知識・技術をしっかりと

今年度は酒田光陵弓道部二度目の全国総体出場を勝ち取ることができました。私は全国総体でチームの主将を務めました。大会では、私達は勝つために弓を引くのではなく、ここまで指導してくださったコーチ、顧問の先生方、保護者の方々や先輩へ感謝しながら弓を引くことに努めました。自分たちがこの会場にいるのはたくさんの皆さんの支えがあったからこそ、私は思っています。大会では、静かで張り詰めた空気の中、自分たちの最大限の正射を体現することができました。結果はベスト16であと一歩で入賞でしたが、全国上位校と互角に競い合えた自分たちを誇らしく思いました。後悔はありません。

活躍紹介

ボート部 **鈴木 伶奈さん** 3年8組

第73回国民体育大会福井しあわせ元気国体2018
平成30年10月3日 福井県立久々子湖漕艇場



ボート競技 少年女子シングルスカル 第1位



二連覇達成 レース直後の笑顔の鈴木さん

今年一年は、目標としていたボート競技でのアジア選手権大会三位、世界選手権大会出場、国体二連覇を叶えることができました。このような結果を残すことができたのも、酒田の皆さんの支えがあったからこそだと思っています。三年前の春には、初めて経験する競技で結果を残すことができたのか、親元を離れて生活することができたのかという不安を抱えての酒田での生活でした。しかし、家族やボート顧問の先生をはじめ、チームメイトの協力もあり、クラスでは、公欠により休んでいた時の授業をフォローしてくれました。下宿のおばさんには食生活を支えていただきました。国体二連覇できたのも皆さんの励ましや応援があったからです。中学三年の冬、バスケットボールからボート競技へ種目変更したことが間違いではなかったと改めて実感しています。

写真部 **佐藤 礼偲くん** 3年9組

第42回全国高等学校総合文化祭2018信州総文祭写真部門
平成30年8月7日～11日 長野県安曇野市 豊科近代美術館



最優秀賞 文部科学大臣賞受賞の「ひだまり」と佐藤くん



今年8月、第42回全国高等学校総合文化祭写真部門において最高賞である文部科学大臣賞をいただきました。高校3年間を写真で彩ってきた私にとって、一番の思い出であり、実力を発揮できた場でありました。

私は祖父の影響で写真を始めました。高校入学をきっかけに一眼レフを祖父から購入してもらい、一年生の4月から写真に没頭する日々を送っていました。カメラとともに四季の彩りを感じ、約一年たつて出会った景色が、今回文部科学大臣賞をいただいた作品「ひだまり」の景色でした。あの場所でのファインダーをのぞくとドラマのワンシーンでも見ているかのような感覚でした。列車が駅に入線し、窓から車掌さんが地域の方へ声をかけるその一瞬を私は夢中でシャッターを切りました。予想外すぎる展開にいい意味で身震いを興したことは今でも忘れられません。

私は将来、フォトグラファーになることを目標としています。写真を通じて地方の地域活性化に貢献していければと思っています。決して観光資源や、名物がなくとも、地域には人がいます。素晴らしい景色があります。普段の生活では感じることで、きかないような素晴らしい情景に出会い、それを写真として発信する。そういったフォトグラファーを目指しています。

りと託し、OBとして応援していきたいと思っています。

目標達成



水泳部 大場 妃 優

私は、インターハイ、国民体育大会、日本選手権に出場させていただきました。インターハイには三度、国民体育大会には二度出場させていただき、とても充実した三年間になったと思います。

実際に全国大会に出場してみても緊張しました。また、東北大会とのレベルの差を感じました。しかし、レース前などはストレッチなどを行い、リラックスし本番に挑むことができたのでよかったです。全国大会三年目の時点では、レースに向かう体制も一年目に比べ大幅にようになっていたと思います。残念ながら結果を出して思返すことができませんでしたが入学当時の目標であった、「三年間全国大会出場」を達成することができたのでよかったです。



剣道部 白崎 桃 汰

これまで多くの大会に出場できたのは、コーチや仲間、陰ながら支えてくれた家族がいたからこそだと思います。これからも感謝の気持ちを忘れず生活していきます。ありがとうございました。

上には上

私たち剣道部は三重県であったインターハイに出場してきました。結果は予選敗退でしたが、全国大会に参加して学んだことはとても大きく、私達の財産になりました。私たちは春の全国選抜大会の出場を逃してしまい、全員が悔しい思いをしました。次はインターハイ出場を目標に一生懸命練習してきました。練習は辛く、挫けそうな時もありましたが、主将として部員全員を引っ張り、インターハイに出場することができました。私がインターハイで学んだことは団結力です。私たちも団結力で県代表になりましたが、上位のチームはより団結力が高かったです。個々の力だけでなくチーム一丸となり戦う姿に圧倒され、改めて団結力を学ぶことができました。



ボート部 伊藤 一 海

私達は、日々の厳しい練習を乗り越え、数多くの大会に出場してきました。その中でも、インターハイには、県大会を優勝したクルーが出場しており、私達は全国の舞台で精一杯戦ってきました。インターハイには、自分たちの力だけで出場できず、家族の協力

全国大会に出場して

や先生たちの指導がなければ出場できなかったと思います。一つでも上の順位を目指し、精一杯頑張りましたが、インターハイのレベルは高く、思うような結果を残すことはできませんでした。しかし、大会を通して学べたことが多く、この経験を後輩にも伝え、来年、再来年は、今年以上の結果を残してくれるよう期待しています。

私達が多くの大会に出場し、様々な経験が積めたのは、部活動の応援や送り迎えをしてくれた家族、大会運営や指導をして頂いた先生方、地元の関係者の方々、スポーツ・文化後援会の方々のご支援のおかげです。心から感謝しています。三年間、本当にありがとうございました。



体操部 佐藤 泰 斗

私は、高校に入学してから新体操を始め、高校一年生の頃からインターハイ出場を目標にして日々の練習に取り組んできました。一つの目標を決め、その目標に向かって集中して練習に取り組むことで最後の年に念願のインターハイに出場することができました。

インターハイの一週間前の練習ではうまくいかず、なげやりになり演技を最後まで通さなかったときに「県の代表としてお前に負けて全国にでられなかったやつらの気持ちを考えてミスしても最後まで通し切りなさい。」と徳永先生

インターハイに参加して



少林寺拳法部 佐藤 竜 司

に言われ、この言葉のおかげで県の代表としての自覚と責任が一層深まりました。

三年間の目標だったので緊張はせず、本番では今までの演技で一番美しくできました。ミスはしましたが、最後まで全力で演技をすることができ、その結果自己ベストを出すことができました。この結果は顧問の先生方などの支援のおかげです。ありがとうございました。

私たち少林寺拳法部は、組演武一組、単独演武一人の計三人がインターハイに出場しました。本当はもう一組エントリーしていましたが、体調不良が原因で出場を見送る事になりました。日々の練習だけでなく、合宿や他校との合同練習などや県外の先生や選手との練習を通して、様々な角度から自分たちの演武や動きを分析し改善する事に力を入れて練習しました。しかし、結果は組演武、単独演武どちらも予選敗退という悔しい結果でした。

三年生は引退し、一年生二人だけになってしまいます。来年、新一年生が入部してくれるように、また入部してからも楽しく、なおかつ技術や知識の面でも成長できるように今まで培ってきた教えや技術を今の一年生に余すところなく伝えていきたいと思っています。そう

インターハイに出場して



相撲部 秋葉 成 海

今年度、私はインターハイと国民体育大会に出場させていただきました。大会では全国から集まったレベルの高い選手ばかりいて、少し物怖じしてしまいました。しかし、今までの練習やコーチ、先生の応援を思い出してベストを尽くすことができたと思います。結果は、課題の残るものでしたが、上位入賞した選手の取り組みから、相撲の技や型など、多くのことを学ぶことができました。

二つの全国大会で結果を残すことはできませんでした。しかし、県の代表として全国大会に出場できたことはとても嬉しく思います。今回の全国大会に出場できたことはとても貴重な経験になりました。このような貴重な経験ができたのは、家族や学校の先生方、相撲を指導していただいた先生の応援とスポーツ文化後援会の方々のご支援のおかげであり、心から感謝しています。この感謝の気持ちを忘れずに、これからも日々努力して、来年の糧にしていきたいです。